日本臨床外科学会　国内外科研修報告

がん研有明病院での外科研修（胃外科・食道外科）を終えて

富山大学学術研究部医学系消化器・腫瘍・総合外科（第二外科）
荒木　達大

2024年11月25日から12月22日までの１カ月間にわたり，がん研有明病院の胃外科および食道外科での研修をさせて頂きましたので，ここにご報告いたします．このたび，胃外科部長の布部創也先生や食道外科部長の渡邊雅之先生をはじめ外科研修に多大なご指導・ご鞭撻頂きましたスタッフおよびレジデントの先生方に，この場を借りて深く感謝申し上げます．

私は研修医期間を富山県で過ごし，その後富山大学で消化器外科医として研鑽を積んでおりました．その期間に多くの先生方からご指導いただき大変勉強になる日々を過ごしておりましたが，年を追うごとに，些細なことではありますが日々の診療に対しclinical questionを持つようになりました．専攻医期間を終え，このタイミングでこれまで自分が学んできたことを振り返るとともに，消化器外科医として知見を深め次のステップへつなげたいという思いから，今回の外科研修へ応募させて頂きました．

がん研有明病院は，全国から多くの消化器外科医が学びに来ておられることは以前より伺っており，そのような環境を肌で感じ，自身の今後のスキルアップの糧にしたいと思っておりました．

研修初日からスタッフやレジデントの先生方ご指導のもと，現場に入らせて頂きましたが，まず私と同世代のレジデントの先生が１例１例の手術や術前準備，術後の管理に対し，非常に真剣に臨んでおられる姿が印象的でした．特に術前・術後カンファレンスについては，重要事項を端的にパワーポイントにまとめ，稀少な症例では参考文献も付加するなどしながら，学会発表や論文作成を見据えた診療をされている姿に大変感銘を受けました．そして，研修期間中にレジデントの先生方による技術認定医取得に向けたビデオカンファレンスに参加することができました．日常診療を終えた後で１日の疲れがある中でも活発な討論がなされ，外科医の原点を垣間見ることができ，私の身も引き締まる思いでした．

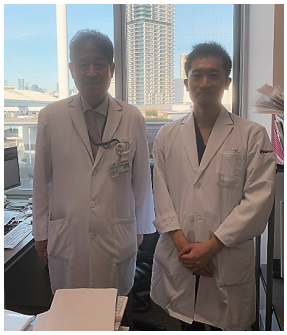
カンファレンスについては，消化器外科内にとどまらず内科や放射線科，化学療法科といった他科とのカンファレンスの場が設けられており，いずれもレベルの高い議論がなされ，新たな視点が広がる非常に興味深いものでした．複数の科が垣根を越えて患者にとってふさわしい治療方針を話し合う姿勢は患者診療において非常に重要であり，大変感銘を受けました．

手術に関しては，疾患に対し様々なアプローチで取り組まれており，１つの術式を見学するだけでも大変多くの学ぶことがあったと感じております．現在，がん研で取り組まれている食道胃接合部癌に対するトンネル式に食道-残胃をつなぐ吻合法や，胸部食道癌に対するIvor-Lewis食道切除術を初めて見学させていただいたことは印象に残っております．様々なアプローチを試していくことで新たなエビデンスが生まれる瞬間を知ることができたのは，今後の診療にあたっていく上で良い刺激になったと考えています．腹腔鏡手術の執刀数は他の病院の比ではないと思いますが，その中でもどのスタッフの先生もレジデントが助手をしながらの執刀，あるいはレジデントに執刀させながらも，難症例であっても確実に時間通りに遂行される姿に感銘を受けました．

４週間という短い期間ではありましたが，ハイクオリティな手術や新しい手術を体感できたこと，スタッフやレジデントの先生方とお話する中で他施設の雰囲気を感じることができたこと，そして手術や診療に対してゆっくり向かい合うことができた時間は私にとってかけがえのない経験となりました．さらに，がん研の先生方の手術や学術活動に対し，ひたむきに努力されている姿を思い出にさせてもらい

ました．この国内外科研修で得たことは，今後の大学での診療にも取り入れていきたいと思います．

最後になりましたが，このような貴重な機会を与えて頂きました布部創也先生，渡邊雅之先生をはじめとしたスタッフ・レジデントの皆様，国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生，がん研有明病院院長の佐野　武先生，４週間の不在をお許しくださった富山大学学術研究部医学系消化器・腫瘍・総合外科の藤井　努教授，医局の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます．



左写真：食道外科部長　渡邊先生との１枚
右写真：胃外科部長　布部先生，スタッフ・レジデントの先生方との１枚